

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

19 Aug. 2009

IN THE HEADLINES



香港

2009年第2四半期(4~6月)の実質 GDP 成長率は前期比プラス 3.3%と大方の予想を上回り、香港経済が他のアジア諸国と同様、成長軌道に回帰しつつあることを示した。前期比プラス成長は2008年第1四半期以来。もっとも前年同期比では3.8%のマイナス成長のままとなった。金融緩和と財政支出の拡大を背景に個人消費と公共投資が拡大するなど内需がけん引役を果たした。一方、設備投資は引き続き落ち込んだ。輸出入はともに回復し始めており、輸出は中国での需要が寄与。19日発表の5~7月の失業率は4~6月と変わらず5.4%、改善傾向をさらに示す内容となった。



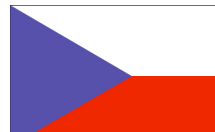
ナイジェリア

6月に中央銀行の新総裁にラミド・サヌーシ氏が任命された。健全なリスク管理への期待もあり、さっそく銀行システムの強化に乗り出している。脆弱なコーポレート・ガバナンスにより経営難に陥っているとされる中堅銀行5行を管理下に置いたほか、金融危機の予防に26億ドルを投じることを約束している。為替レートは2008年第1四半期以降、60%下落しているが、銀行株はこれと連動する形で値を下げている。M&Aや潜在的に収益性が高いとされる国内市場への外資参入など2004年に起きたような銀行再編が再び起きると予想される。



ルーマニア

2009年第2四半期の実質 GDP 成長率は、第1四半期の前年同期比マイナス6.2%に続き、速報ベースで同マイナス8.8%となった。予想以上に深刻な景気後退により2009年の財政赤字の対GDP目標値(4.6%)の達成は難しくなった。この目標値は総額200億ユーロにのぼるIMF融資の条件として合意されたもの。しかし、IMFは先頃、この目標値を7.3%に引き上げ、融資の大半を財政赤字の穴埋めに充てることに合意したと伝えられている。IMF融資は当初、外貨準備とルーマニアの通貨レウの下支えに利用される予定だったが、両者ともにここ数ヶ月は安定している。これにより目先のリスクはいくぶん緩和されているが、2009年の財政赤字はおおよそ10億ユーロに達すると予想される。



チェコ

2009年第2四半期の実質 GDP 成長率は、第1四半期の前年同期比マイナス3.3%に続き、速報ベースで同マイナス4.9%となった。外需の急減により製造業部門の生産が大きく落ち込んだことが響いた。上半期の財政赤字はおおよそ680億コルナと当初予算の通期目標である380億コルナをすでに79%上回っている。景気後退により税収や社会保障収入が急激に落ち込む一方、社会保障支出の拡大で歳出は増えている。2009年の実質 GDP はおおよそ3.5%減が見込まれ、財政赤字の対GDP比は2008年の1.5%から4~5%に拡大すると予想される。

ALSO IMPORTANT---



南アフリカ

南アフリカ準備銀行は13日、金融政策委員会で政策金利(レポレート)を0.5ポイント引き下げて7%とし、再び予想外の利下げに踏み切った。インフレ予想は概ね変わっていないため、これは依然として脆弱な実態経済への対応とみられる。小売売上高と製造業の業況を指数化した購買指数(PMI)は引き続き低迷しており、今後もマイナス成長が続くことを示唆している(2009年第2四半期のGDP成長率は第1四半期の前年同期比マイナス6.4%に続いて同マイナス3%を記録)。貿易と投資の波及効果から南ア経済は世界経済の動向に遅れを取っており、景気回復の転換点はまだ訪れていない可能性が高い。しかしながら、第4四半期までに何らかの形で景気回復の兆しは現れ、2009年のGDP成長率はマイナス2%程度になると予想される。ワールドカップが開催される2010年に3.0~3.5%程度のプラス成長に回復しよう。



ハンガリー

2009年第2四半期のGDP成長率は、第1四半期の前年同期比マイナス6.7%に続き、同マイナス7.6%とマイナス幅が拡大した。金融及び財政引き締めと外需の急減が背景。ハンガリー国立銀行(中央銀行)は7月末に政策金利を1.0ポイント引き下げ、8.5%としたが、内需を大きく刺激するには至らない可能性が高い。内需は銀行部門の不振と多額の対外債務の問題が引き続き足かせになると考えられる。2009年の実質 GDP 成長率は6%強減少すると予想される。インフレ率は2008年初めから沈静化し、2009年3月には前年同月比2.9%まで低下したが、食料価格の上昇、VAT(付加価値税)及び物品税の引き上げにより7月には再び5.1%に上昇した。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



メキシコ

カルデロン政権は7月の中間選挙で敗北を喫し、一部の地域では治安が懸念されているが、制度基盤が大きく揺らぐことはないと考えられる。経済は深刻な景気後退にある(2009年第2四半期の実質 GDP 成長率は前年同期比10%強減少したと推測される)が、下半期はいくらか回復に向かい、2010年のGDPは2.0~2.5%のプラス成長になると予想される。インフレ率と金利は低下しており、世界的な金融危機の最悪期に急落したメキシコ・ペソも安定度を増している。IMFのFCL(IMFが3月に新興国向けの緊急融資制度として創設した「弾力的信用枠」と米FRBの通貨スワップのおかげで外貨準備は適正水準にある。しかしながら、原油収入の減少により財政赤字には拡大圧力がかかっている。



シリア

このところの米オバマ政権との雪解けムードにもかかわらず、5月に表明された米国による制裁継続と地域不安により政治的不透明感が漂っている。しかしながら、アサド大統領とバース党の政権基盤は揺るぎない。農業と工業はそれぞれGDPの約15%と約30%を占めており、綿産業の割合が低下する一方、引き続き原油生産に依存している(輸出収入の約40%)ことを示している。世界のエネルギー需要の回復の足取りは鈍いことから、GDP成長率は2009年は2%程度、2010年は3~4%と予想する。

IN BRIEF

経済 トルコ

2009年第2四半期のGDP成長率:エストニア 前年同期比-16.6%;スロバキア 同-5.3%;ウクライナ 同-18%
トルコ中央銀行は8月18日、主要政策金利0.5ポイント引き下げ、7.75%とした。前年同期の水準と比べた利下げ幅は9ポイントに及ぶ